

# これが 公民館報

第338号

御意見・御希望・お問い合わせは四賀公民館まで… TEL 64-3112

四賀の世帯数・人口

世帯数	1,903世帯
人口	4,177人
男	2,020人
女	2,157人

(令和4年1月1日現在)

# 祝御成人 おめでとうございます



会田中学校

今年度、四賀地区では28名が成人を迎えました。今後の目標や抱負を伺いました。皆様の夢がかなうよう願っています。

今日まで見守ってくれた四賀の皆さんに感謝です。トレーナーとして人の役に立ちます。  
川窪 遼

新しい出逢いから可能性を広げ、打たれ強く芯のある大人になりたいと思います。  
堀内 舜

学生時代にしか出来ない経験をたくさんし、それを卒業後に社会で活かせるようにしたい。  
五常 太郎

大学で学んだことを活かせる職業に就けるよう、頑張りたいです。  
ゆー丸様。

患者さんの心に寄り添い、信頼される看護師になれるよう頑張りたいと思います。  
鈴

幼い頃からの夢である看護師になるために日々課題と自習と格闘しています。がんばるぞ☆  
キャンディキャンディ

将来の夢はカッコいい親父になることです。様々なことを経験し、広い視野を持つことを意識して生きていきます。  
中澤 達哉



**書初め教室**  
1月5日(水)四賀支所  
午前午後それぞれ10名が参加。小峰真佐子さんの指導を受け、集中して書き上げました。



## 四賀きましゃるソン 秋の大結ぶ市

11月6日(土)さわやかな秋晴れの中、秋の三大イベントが同時日開催されました。



**四賀きましゃるソン2021**  
思い思いのコースをそれぞれのスタイルでめぐりました。



**秋の大結ぶ市**  
春、夏に続いて3回目の開催。お弁当、パン、カレー、クレープ、クラフトなどの出店が並びました。



## 錦織マルシェ 音と遊ぼう



四賀の里錦織に力強い虚空蔵太鼓の演奏と共に「音と遊ぼう」が開催されました。四賀地区では久しぶりの音楽イベントです。全5組が出演し、その中で2年ぶりとは思えない演奏と透き通った美しい歌声で会場を包み込んだ花とクローバーのみなさん。ヴォーカルはこの四賀地区出身のシンガーソングライター花村祐子さんです。オリジナル曲2曲を含む全6曲を演奏されました。心癒されるとも素敵な野外ライブでした。

### 長野方面ウォーキング

11月15日(月)須坂市の臥竜公園を歩きました。公園内とはいえ意外な急勾配があったり歩きごたえのあるコースでした。今回も天気恵まれて北信五岳の眺望も楽しめました。降りてからは小布施の街での散策。新栗のお菓子を求めて多くの観光客が訪れていました。



### ウォーキング講座

体力の維持増進や生活習慣病の改善に効果があると科学的に立証されているインターバル速歩の体験会が11月17日(水)に開催されました。参加者は講師の古籬俊一先生からピナスホールホワイエで歩き方の基本を学んだあと、隣りのふるさと公園に移動して実際に体験。速歩きとゆっくり歩きを2分ずつ繰り返す練習をしました。見た目よりきつく、途中で離脱する参加者もいました。無理は禁物とすることです。



### しめ飾り体験学習会



12月11日(土)にピナスホールにて行われました。十数人の参加者が正月に向けてしめ飾りの製作体験をしました。

### 双葉保育園児クリスマスツリー飾り付け



12月14日(火) 四賀支所玄関に設置した高さ5mのクリスマスツリーを双葉保育園児の皆さんが飾り付けました。

### 天満敦子 ヴァイオリンコンサート



11月7日(日)開催 150名がピナスホールで美しい音色に聞き入りました。

### 蕎麦打ち講座



12月4日(土) 9名が参加し、蕎麦食人会の皆さんから蕎麦の打ち方を学びました。

### しがクリスマス市



12月11日(土)に四賀支所にて開催されました。季節ごとに年4回行っている大結ぶ市の冬季版。多くの客でにぎわいました。

### 屋外で調理ができる ロケットストーブ作り

11月20日(土)に四賀支所で煮炊きに使うロケットストーブ作りの体験会が開かれました。講師の久保田眞司さんがあらかじめ準備した、オイル缶を加工した部品を慎重に組み立て、2時間ほどかけて完成させました。手作りのストーブを前に参加者の一人は「孫に焼き芋を作ってあげたい」と笑顔で話していました。



### 横川公民館にAED



公益財団法人長野県市町村振興協会の宝くじによる助成で設置されました。

### 湧き水

▼新型コロナウイルスの影響で閉鎖的な生活が続く中、身近な町会活動にも影を落として来ました。特に伝統行事のあり方に不安を感じてしま

ます。私共の町会でも毎年十月に行われてきました秋祭りが二年連続中止となり、今後の開催方法等が取り沙汰されています。

▼そもそも、少子高齢化や住人の流出も根底にある所にコロナ。私共の町会で行われてきた春祭り、子供主催で行われるこども祭り、秋祭り、三九郎、あめ市等々、全てを見直す時代に入ってきた事を感じます。真剣にその伝統の意味や歴史の見直し、どうしたら継続させてゆく事が可能なのか昨年の秋祭り中止時から調査や議論がスタートしました。

▼コロナはともかく、祭りを開催しようと思っても、まず元氣な若者も子供も減少方向の一途。そして、毎年上がり続ける高齢化率。どんなに「伝統行事は絶やしてはいけない」と謳ってみても何か時代はそれを許してはくれな